

鹿嶋の山車紹介

鹿嶋神宮の神幸祭には奉祝のため、五芳町の山車が曳き廻されます。曳き廻す山車の歴史は記録により、安政四年(一八五七年)に大町区、また元治元年(一八四九年)に角内区に山車が作られ、その間に仲町区・桜町区に山車七作られたと思われ、新町区に山車は明治七年の記録があります。山車には鳴物お囃子が必要です。この鳴物は、江戸の中期以降成田詣・東国三社詣の人の往来の中で伝えられたものと思われ、歌舞伎のはやし・神田ばやし、地方に普及していた田楽などが融合して佐原ばやしとなり、やがて水郷地帯に伝わり、芸座連が結成されていきました。お祭にはこの山車と囃子が神宮の神事その他の奉祝に参加し、古くからの伝統の技を堅持して現在に至っています。

- ①山車製作年 ②製作者氏名 ③人形製作年
④人形製作者 ⑤芸座名地名 ⑥額の文字
⑦揮毫者

仲町区山車



あまてらすすめらのおおかみ
天照皇大神
①新造平成5年 ②青柳義行(町内建築業者)
③平成14年 ④人形師五代目綱季(熊谷市)
⑤潮風會囃子連(潮来市)
⑥神徳(しんとく)
⑦鹿島神宮元総代 椎木有道

角内区山車



たけみかづちのおおかみ
武甕槌大神
①新造平成元年 ②篠塚良雄(潮来市建築業者)
③平成元年 ④田島義朗(千葉県八千代市)
⑤上町芸座連(潮来市)
⑥敬神(けいしん)
⑦鹿島神宮元宮司 東 實

桜町区山車



このはなさくやひめ
木花咲耶姫
①新造平成26年 ②田中正男(千葉県香取市)
③平成26年 ④(株)京都科学(京都府)
⑤源囃子連中(潮来市)
⑥神随(かんながら)
⑦鹿島神宮名誉宮司 上野貞文

新町区山車



しょうとくたいし
聖徳太子
①新造平成4年 ②田中春男(千葉県香取市)
③平成4年 ④古屋敷吉男(佐倉市)
⑤祭好会鹿嶋芸座連(鹿嶋市)
⑥和(わ)
⑦鹿島神宮元宮司 東 實

大町区山車



つかはらぼくでん
塚原ト伝
①昭和5年 ②川辺留吉(町内建築業者)
③平成18年 ④川崎人形店 川崎勝久(さいたま市岩槻区)
⑤牧野下座連(香取市佐原)
⑥和楽(わらく)
⑦漢詩人 織田鐵三郎

神幸祭

九月一日午後八時



九月の一日・二日は鹿島神宮のおまつりで、地元の中地区を中心に「ご神幸」という名称で親しまれています。神幸祭とは九月一日の夜八時に神様がごでましになることをいひ、午後八時半過ぎには御神輿が興丁奉仕者により捧持されて町内へ出御となります。二日は楼門前の(徑)で午前10時より行宮祭が、午後三時から行宮祭が行われます。一日には山車祭りが、一日夕刻には提灯まちなちが奉納されます。

還幸祭

九月二日午後三時



行宮出御の御神輿が本宮へ還る祭典で、神幸祭を反す姿で奉仕されます。町内を巡幸して拝殿へ還御します。表参道には山車五台が並べられ各町内役員以下全員が整列し、芸座は段物を演奏奉納して御神輿を奉送迎します。供奉員は、陣笠・陣羽織等の供奉の服装で、警護役の鹿島新当流・総大行事等は流服・隊服着用、参列者も大紋、その他指定の服装にて参列をします。

提灯まちなち

九月一日午後四時



大きな青竹に無数の小提灯を結んで繩を四方に引き一本の竹をおよそ二十人ほどで推し立てながら祭頭囃も高らかに神宮へ一歩一歩進みこれを眺めるの響にして奉焼します。現在この行事を「提灯まちなち」と呼んでいます。以前は神幸祭としての御軍祭に眺場で響を焚く祭礼行事がありました。そこへやがて提灯の市が立ちこれを購入入れて奉納奉焼する行事が起こったのではないかと考えられます。

- 大提灯奉納数 ▶ 16基
- 大提灯奉納時間 ▶ 9/1 16:00から20:30
- こども提灯奉納時間 ▶ 9/1 14:00から16:00
- 大提灯奉納コース ▶ 鹿島神宮第二駐車場～鹿島神宮境内まで
- 先頭大船津赤ちょうちん奉納出発時間 ▶ 16:30

鹿島神宮めぐり

- 大鳥居**
東日本大震災で倒壊した大鳥居に変わり、平成26年6月に竣工しました。神宮の森で数百年育まれた天然杉四本が使用され、その素材で雄大な姿は震災復興のシンボルとして親しまれています。
- 楼門**
寛永11年(1634)、徳川頼房公が奉納したこの門は「日本三大楼門」の一つ。緑の中にひときわ朱色が鮮やかです。なお「鹿島神宮」の扁額(へんがく)は東郷平八郎元帥の直筆によるものです。
- 本殿**
社殿は元和5年(1619)徳川秀忠公より奉納されたもので、桃山期の極彩色が華やか。本殿・幣殿・拜殿・石の間のいずれも国の重要文化財の指定を受けています。社殿の背後にある杉の巨木は根廻り12m樹齢1,300年と推定されるご神木です。
- 鹿園**
園内に遊ぶ鹿たちは、「神のお使い」。現在の鹿は、鹿島から移された春日大社(奈良)の鹿の子孫を再び受け継いだものです。「アントラー」とは鹿の枝角のこと。「Jリーグ鹿島アントラーズ」の名もここに由来しています。
- 奥宮**
慶長10年(1605年)、徳川家康が関ヶ原の戦勝のお礼に本殿として奉納されました。二代将軍、徳川秀忠による社殿造営の際に現在の処に引き運んだもので、重要文化財に指定されています。
- 要石**
地震を起こす大なまの頭を押さえているといわれる霊石です。いくら掘っても全容は掘り尽くせないといわれ、「鹿島の七不思議」の一つにも数えられています。
- 御手洗池**
この池は、古くから神職のみそぎの場で、大人が入っても子供が入っても水面が胸の高さを越えないといわれ、「鹿島の七不思議」の一つとなっています。
- 布袋** **大黒天**
福祿寿 **毘沙門天**
寿老人 **恵比寿**
弁才天

まちあるきマップ



- ### 七福神めぐり
- にこやかな表情の七福神の石像が通りに並んでいます。中には握手を求めるように右手を差し出しているものも。縁起のいい神様たちにごあいさつして回ると、福を招きます。

- ### 鹿島歴史めぐり
- 鹿島城山公園**
鹿島神宮から徒歩5分の距離にあるこの公園は、市民の憩いの場。北浦を望む場所には鹿島城跡の碑も建てられています。
 - 塚原ト伝の像**
宮本武蔵との「なべぶた試合」の話で知られる塚原ト伝(1489～1571)は、鹿島新当流の開祖。その偉大な功績を記した碑と銅像が剣聖塚原ト伝誕生五百年を記念して建立されています。
 - 鹿島城山公園**
鹿島神宮から徒歩5分の距離にあるこの公園は、市民の憩いの場。北浦を望む場所には鹿島城跡の碑も建てられています。
 - 根本寺**
聖徳太子の開基と伝えられる寺で、仏頂和尚の禅の師と仰ぐ俳聖・松尾芭蕉も貞享4年(1687)にここへ月見に訪れています。その様子は「鹿島紀行」にも記されており、境内には月はやし梢は雨を持ちながらなどの句碑も建てられています。
 - 鎌足神社**
天智天皇に仕え、645年大化の改新を断行した藤原鎌足を祭る神社です。歴史書「大鏡」には、鎌足は鹿島神宮の鎮座する地で出生したとあり
 - 要石**
地震を起こす大なまの頭を押さえているといわれる霊石です。いくら掘っても全容は掘り尽くせないといわれ、「鹿島の七不思議」の一つにも数えられています。
 - 御手洗池**
この池は、古くから神職のみそぎの場で、大人が入っても子供が入っても水面が胸の高さを越えないといわれ、「鹿島の七不思議」の一つとなっています。
 - 布袋** **大黒天**
福祿寿 **毘沙門天**
寿老人 **恵比寿**
弁才天